

## 「祈り」の年會に

国内教会局長 大兼久 芳規



「戸を閉めて、……あなたの父に祈りなさい。」

（マタイ六章6節）

今年の年會は「祈り」に心が向けられています。年會準備祈禱會も、2月と3月に行われ、年會の真ん中に「祈り」がありながら、年度のスタートができたら幸いです。また年會だけではなく、個人の信仰でも「祈り」が真ん中にあるときに、その一日は豊かさや安心が伴う一日となるでしょう。

祈りと聞くと、その形や内容が気になりますが、ここでは主が「あなたの父」に祈りなさいと、どなたに祈るのかということの大切さをまず教えておられます。祈るときに、すぐに言葉を出して祈っていた者ですが、すぐには言葉を出さず、言葉を出す前に、どなたに祈っているのかに意識を向けるようになりました。祈りを聞かれる方が「ここに居られる」。この方は、私の祈りを「待っておられる」。そのことを確認してから、祈り出すことを教えられています。

では私たちが祈りをささげる「父」とは、どのようなお方なのでしょう。ひとことと言うと、父とは「子どものことを、本人以上に知る方」という事ができます。詩篇一三九篇には「私の道のすべてを知り抜いておられます。そのような知識は私にとってあまりにも不思議」と、ダビデは自分のことをここまで知っておられるお方がおられるのかと驚いています。そのような驚きを覚えつつ、祈ることが許されたら恵みです。

自分の状況を、まるで父は知らないかのように説明

している自分に気付くとき、このような信仰の前に、恥ずかしくなります。父は子とされた私のことを、私以上によくご存じなお方です。そのことを告白し、知られている子として祈らせていただきます。

そのために大切なのは「戸を閉める」ことです。もちろんドアを閉めて自分ひとりの部屋で祈る意味もありますが、「戸を閉めて」とは「人を意識しない」という意味があります。

施しも善行も、人を意識して行われやすいことを、主イエスは語られました。それは祈りも同じです。

ささげものや善行が人を意識してなされたとき、その報いをもうすに受け、天からの報いが省かれると書かれています。それが人を意識した祈りではどうなるのでしょうか。主が喜ばれる祈りをおささげしましょう。そのために必要なのは「戸を閉めた」祈りです。

深い交わりには、他のものが入ることはありません。相手を愛し、相手を尊ぶときに二人だけで過ごす幸いが、そこにはあるからです。私を愛するお方は、他のものが入らない関係を望まれます。父はそのような私の祈りを待っておられるお方であることを主イエスは示されました。そしてご自身も戸を閉じて、人を避けたいところで祈られ「わたしに従いなさい」と言われました。私たちもこの年會で、そして日々の生活で「戸を閉じた」祈りをささげることが許されたら、神の前に豊かな時となることと信じます。

### 目次

- 「祈り」の年會に……大兼久 芳規……1
- 年會を前に、札幌から、年會準備祈禱會……2
- 教団運営委員会、年會ご案内、日本伝道會議……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、読書のひろば……4
- 関東南ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～10
- 教育局青少年部から、信徒局の報告……11
- 公報、消息……12

第77次年会を前にして

# 教会を巡り 国内教会局の最大の 課題は全国教会の維持

国内教会局長 大兼久芳規

「彼らは町々を巡り、……諸教会はその信仰を強められ……」

(使徒の働き一六・4、5)  
いま国内教会局の一番の課題は、全国の教会の維持です。

使徒の働きにみる初代教会の姿は、パウロたち伝道者が町々を巡り、福音を伝え、教会を建て上げて支える姿です。その後も開拓した教会を何度も巡り、励まし、支えました。集われた人々を弟子とし、その群れをゆだね、次の町に向かいます。一番長く留まったのがエペソ教会ですが、それでも3年と書かれています。その他は長くても3週間、数日ということもありました。そのような中でも、教会は建て上げられていきました。

いま、常駐の牧師を全教会に派遣することが難しくなっています。牧師の高齢化、働き人の減少が主な原因です。現在、任命されている先生方が病に倒れられたり、引退されたとき、新しい牧師を派遣することが許されない状況です。

献身者が与えられるようにと、全国の教会でも篤い祈りの手が挙げられています。その欠けをすぐに満たすことができない状態が続いています。

このような状況を乗り越えるために、教団内での兼牧や、信仰を同じくする他教団の教会との合流などの対応が取られてきました。

自らが信仰生活を送っている教会に、牧者が常にいることは大きな安心であり、恵みです。しかし、初代教会では、伝道者が常に定住していた形態よりも、教会教会を「巡り」、その信仰を伝えることで教会が支えられていました。

この年会では、教会に牧師の欠員が生じたとき、教会を支える「兼牧」についての学びと紹介の時間が持たれます。兼牧の内容と恵み、そこで支えていくべき信徒の方々の働きが紹介されます。

一昨年来のコロナ禍への対応として、ライブ配信による礼拝も多くの教会で行われ、教会や家庭で、共に礼拝が守られています。他にも教会を維持していく営みには多くの可能性があるでしょう。

そのために国内教会局では祈り、上からの知恵を仰いでいます。それぞれ教会・教区でも、祈りとよき知恵を持ち寄っていただけましたら幸いです。

主がご自身の血をもって買いつけてくださった大切な教会、また兄弟姉妹方です。聖霊の豊かな働きを期待し、その火をどうかにかして、灯し続けたく願います。

## 北海道・札幌から……

# 災害級の大雪になりました お祈りを感謝します



札幌教会 蔦田康毅

北海道の教会の冬の戦いを覚え、全国より格別なお祈り、ご支援を頂き、心より御礼申し上げます。

今冬の札幌は、記録的な積雪で、町中の道路が無数の雪山に囲まれています。場所によっては雪の壁が10m以上も続きます。歩道がなくなり、歩行者も車も、狭く、ぬかるんだり、凍ったりする車道をヒヤヒヤしながら通行しています。さらに、2月初旬の災害級の雪(一晩で1m以上)では、広範囲にわたって公共交通機関が数日麻痺する大混乱となりました。教会の駐車場も、今年は排雪業者を頼み、何度も排雪してもらっていますが、次の積雪ですぐに同じくらいの雪山ができる状況です。車1台分の出入口を確保するのがやっとで、四方は1m以上の雪の壁に囲まれています。会堂上の二階部分やペランダの積雪は2m近くになり、2月の重い雪が心配



されます。近隣との距離が近いため、雪下ろしも難しい状況です。教会の兄弟や近隣の方々も、このような積雪量は初めて、と雪かきに疲れ切っています。北国初心者私たちは、通常約2時間(豪雪の時は6時間半!)かけて除雪をしますが、疲れや痛みからの回復にも相当の時間がかかり、連日となると心身共に力が必要 です。

また、生命線のガソリンと灯油も高騰し、灯油は昨年から約40%高騰しています。オミクロン株の感染拡大も続き、昨年11月に再開した対面礼拝も1月後半から再びオンライン礼拝のみとなりました。

しかし、コロナ対策で始めたオンライン礼拝や祈祷会が、来会が困難な雪の日にも助けとなっており、神様の備えだったことにも驚きと感謝を覚えています。

冬はまだしばらく続きますが、5月の連休頃に訪れる春まで、信仰と忍耐の戦いです。主の恵みと皆様の祈りに支えられながら、主の業に励ませていただきたいと願っています。

## 2回の年会準備祈祷会

# 2月14日と3月14日 オンラインで繋がって 年会のために祈る

南日本 BA 阪下 謙

2月14日(月)午後2時から年会準備祈祷会が持たれました。今までは集まる事が可能な方々によって持たれていましたが、今回はZoom開催となったため、北海道から沖縄、さらに宣教地からも参加することができ、参加人数は約70名でした。

祈りの心備えとして、ルカの福音書一八章1-8節のみことばから、主はさまざま課題を抱えている私たちのことをよくご存じで、私たちの祈りを聞こうと耳を傾けてくださることに励まされたいいただきました。その後、グループに分かれ、短い時間ではありますが心が合せて年会のために祈りを持ちました。

今年の年会は「祈ること」が重要なテーマとなっています。年会の両日とも、まず自由参加の祈祷会によってプログラムがスタートします。また1日目の夜は期別での祈り会や交わりも計画されています。

祈りこそ最も大切な準備です。今年の年会が主の祝福のうちにもたれますように、お祈りをよろしく願います。

教団運営委員会から……

年會に備える

拡大の運営委員会

広報 浜田耕三



のため今年年會では「兼牧・協働・宣教」についての発題がなされま

オミクロン株感染拡大に伴い、教団運営委員会は2月8日、オンラインで開催されました。

の各会場にて按手札が執行されます。▼年會における信徒伝道者11名(更新9名、新任2名)の認定

オンラインで開催 祈りを大切にします

総務局長 寺村秀嗣

今年23日(水)・24日(木)に第77次年會がオンラインで開催されます。

●中目黒教会を配信会場とします。Zoomに参加できるのは年會員(教職である牧師)と準年會員(教職でない牧師、引退牧師、信徒代議員)です。

第7回日本伝道会議 JCE7 JCE7のテーマは「終わりから始める 宣教協力」

名古屋教会 内山 勝

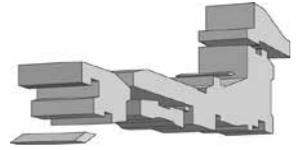
今年9月19日(火)〜22日(金)、長良川国際会議場(岐阜市)を主催されようとしています。

予測できませんが、最悪、完全にリモート開催となることも想定しつつ、リモート参加者を多数受け入れハイブリッドで開催します。





# 国内教会局 スクエア



## 関東南ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー  
佐藤信行

### 東関東教区 (北田直人主事)

▼水戸教会Ⅱコロナ禍でも求道者が与えられ感謝、お祈りを。▼神栖教会Ⅱ対面で礼拝とCSと祈祷会を継続中。▼松戸教会Ⅱ日曜午前の二部礼拝とオンライン礼拝を継続中。▼安食教会Ⅱ共にある神に強められ、教会創立三〇周年を機に、一致して信仰の再出発を！

▼高根教会Ⅱ大人高齢者とCSメンバーを分けて礼拝集会の隔週交互出席を継続中。乞祈禱。▼船橋教会Ⅱライブ配信を併用しつつ、三公会は教会の集まりを継続できて感謝。▼行徳駅前教会Ⅱ対面・オンラインでの集会を継続中。礼拝・祈り・伝道に励んで成長を。▼市川教会Ⅱ二部の礼拝とCSを継続中。第一部はZoom配信も。IT委員会が活躍中。▼千葉教会Ⅱ昨年同様、礼拝・祈祷会・子ども・青年への集会を継続中。▼木更津教会Ⅱまん延防止下、再び世代グループ別の礼拝形態にZoomを併用しての集会を継続中。▼館山教会Ⅱ海からの大風が難敵で、塩害対策として外壁塗装を計画中。

### 東京教区 (野田禎主事)

▼深川教会Ⅱ会堂は30名制限で、オンライン併用で礼拝を実施。▼中目黒教会Ⅱ対面とYouTubeの併用の礼拝を継続中。祈祷会・組会・聖書の学び等はZoomで実施。教会学校はYouTubeとZoomで。▼白鳥教会Ⅱ深川配信のZoom礼拝を月2回、他の礼拝や祈祷会も、対策をしつつ、対面で実施。会員の健康、子どもや青年たちの働きのために。▼王子教会Ⅱ二部礼拝と配信・CD週報配布などを用いて、礼拝を手放さないしぶとい信仰者を目指して。▼板橋教会Ⅱ礼拝・祈祷会は会堂と配信を併用。新会堂建設計画が、材料費高騰の中、設計・建設共に最善に導かれ、主の教会が形作られるように。▼富士見台教会Ⅱ会堂とZoomなどでCS、礼拝、聖書の学び、祈祷会、例会を実施。▼武蔵村山教会Ⅱ礼拝は対面とZoomをYouTubeで、祈祷会はZoomで。新来会者、求道者、祈祷会新参加者が与えられ感謝。▼立川教会Ⅱ礼拝はライブ配信を併用して、礼拝とCSを対面で継続中。各家庭や職場にもみ

守りを。▼八王子教会Ⅱ1/23より各家庭での礼拝に。説教原稿を送付し、メールや電話で近況を確認。高齢者が感染から守られるように。▼甲府教会Ⅱ礼拝と祈祷会をほぼ通常形態で継続中。伝道の働きが深まり、救霊に結びつくように。▼鯉沢教会Ⅱ対策をしつつ御言葉で養われる対面の集会を継続中。仕事や健康上の戦いに信仰を働かせて取り組めるように。

### 神奈川教区 (矢木良雄主事)

▼横浜教会Ⅱ昨年は会堂補修に取り組む。牧師は80歳を越えて、神の御心に励まされて現役を継続中。協力牧師の助けを感謝。▼高津教会Ⅱ礼拝のYouTube配信、礼拝前には工夫しながら幼稚科・中高生のZoomによる教会学校を実施。水曜日夜にZoomによる祈祷会。▼聖言神学院教会Ⅱ礼拝・CS・祈祷会は対面とオンラインで継続中。昨年末に音響設備が一新。四月に創立四〇周年記念礼拝を予定。▼桂町教会Ⅱオンラインでの礼拝を継続中。元気に支えられて感謝。今年の礼拝では「主を知ることのすばらしさ」を学ぶ予定。▼湘南中央教会Ⅱ三〇年の会堂返済終了の年、教会の御言葉は「見よ。わたしは新しい事を行う」で、新しいビジョンを得て、聖と宣の信仰へ導かれるように。▼葦山教会Ⅱ礼拝には教会員のほとんどが出席中。小さなお子さんのいる家庭はオンラインで参加。牧師たちも健康が支えられ感謝です。



## 北京オリンピックで

北京オリンピックで、メダルを待望されている女子スキージャンプの選手がスーツ規定違反で失格となった。しかし、その後のジャンプは本当に素晴らしかった。胸を張って日本に帰ってきて欲しい。精神的ショックから、どのようにして気持ちを立て直したのか？それは、温かなチームの励ましであつたと思う。▼病院で勤務していた時、大きな医療ミスを犯した。家族に謝りに行くとした瞬間、主任が遮った。「私が行く。」激怒する家族の前で主任は何も言わずに10分間頭を下げていた。私はその光景を黙って見ていた。患者さんに苦痛を与え、ご家族にも深い悲しみを与えてしまった。本当に辛かった。私のために頭を下げ続けている主任の姿は今でも覚えていいる。その日の夜、師長にこう話した。「私は向いていない。辞めさせてほしい。」就職して3年。仕事ができない。ミスが多い。私は30分、看護師に向いていない理由を師長に話した。師長は黙って聞いていた。そして、こう言った。「この病棟にはね、自分が看護師に向いていると思つて仕事をしている人はひとりもないよ。」

寮に帰ってみると、部屋の入り口に上寿司の折が置いてあつた。10分間頭を下げ続けてくれた主任の差し入れであつた。私はその寿司を泣きながら食べた。美味しかった、けど、辛かった。私はそれから「辞める」と言えなくなった。▼その日から気持ちが「できない」から「やるしかない」に変わった。しかし、相変わらず仕事はできなかった。でも少しずつ「光」が見えてきた。その病棟で8年間勤務した。奇蹟だつた。▼今は牧師として奉仕している。相変わらず失敗は多い。イエス様はこうお話しする。「イエス様、私は牧師に向いていません。」イエス様はお答えになる。「あのね。わたしが知っている牧師で、自分は牧師に向いていると思つて奉仕をしている牧師はひとりもないよ。」そのお話を伺つて「できない」から「やるしかない」にスイッチが入る。イエス様の温かな大きな手が私の背中をそつと押す。その手には私のための十字架の傷跡がある。「……実に、私たちは滅び失せなかつた。主のあわれみが尽きないからだ。」哀歌三章22節。光はその先に見えてくる。(古川恵子)

巻頭言

自動運転の信仰?



世界宣教局長  
田辺寿雄

ある本を読んでいて「霊的に自動運転になっていないでしょうか?」という文章に出会いました。自動運転とは人間が主体的に操作せずに車が勝手に動く機能です。



広げた翼

Immanuel  
His Wings

Department of World Missions

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

世界宣教局

「霊的な自動運転」とは日々の祈りやキリストとの生きた交わりを主体的に持つことなく、信仰生活や教会の奉仕をしてしまっている状態のことです。そのような状態に慣れたまま礼拝や奉仕を続けていることが私たちの信仰生活にもあり得るのではないのでしょうか。礼拝が自動運転になってしまっていないのでしょうか。礼拝の祝福のために主体的に祈ったり、自分の心と体を備えることなしで出席していかないのでしょうか。恵みや新しい変化を期待することもなく、終わるのを待っているだけのような礼拝になっていないのでしょうか。献金が自動運転になっていないのでしょうか。月定献金など、祈ったり深く考えたりすることなしに、何年もの間ずっと同じ金額のまま、

ということもあり得ます。様々な必要や働きのための献金があっても、無関心のまま同じことのためにだけに献金しているかもしれない。喜んでささげているでしょうか。感謝献金など、タイムリーに、楽しみつつ献げているでしょうか。奉仕が自動運転になっていないでしょうか。説教、教会学校の奉仕、礼拝の司会、会計や会堂掃除、役員や幹事の仕事、委員会の奉仕などをこなしてはいても、そのために祈ることや神に仕える喜びを忘れてしまっていないのでしょうか。経験を経て、いろんなことが出来るようになることは尊いことですが、祈らないで自動的に奉仕を続けてしまうことには注意が必要

です。信仰は自動運転ではなく、神の恵みに応えて自らの主体性を働かせるものです。祈って、考えて、聖霊の知恵と力によって新しいことが生み出され、自ら変わっていくことです。そこに新しい発見があり、生みの苦しみと楽しみがあり、感謝と感動があります。単なる同じことの繰り返しは、だんだんと私たちの信仰を麻痺させ、思考停止した自動運転の信仰へと導きます。主体性をもって祈り、考え、創意工夫して変えていきましょう。教団も教会も、牧師も信徒も、そんな一歩を踏み出せる春でありますように。「心を新たにすることで、自分を変えていただきたい。」(ローマ二章2節)



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬\* 2022年2月8日

「マケドニアに渡って来て、私

たちを助けてください。」(使徒の働き一六章9節)

香港も日本と同様にコロナ禍の中に戦いを覚えています。デルタに加えて、オミクロン株の急激な感染のため昨年同様旧正月の営み(花火やインターナショナル・ナイトパレード)は全て中止となりました。レストランなどの人数は2人まで、営業時間も午後6時までと規制されました。家庭での集まりも2家族までです。

香港イマヌエル教会の方は、クリスマスには普通の営みに戻りましたが、1月2日の年頭礼拝の後には、対面礼拝は持てなくなりました。今年度の教会へのみことば、IIコリント一三章11節を握り、愛と平和の神とともに歩む群れを目標に13年目の歩みを忠実に進んでいます。

そのような中、牧師館が入るビルでオミクロン株の感染者が出てしまい、夜中にビルの閉鎖と居住

者の強制PCR検査が行われました。幸い翌朝には全員の陰性が確認され封鎖が解かれました。しかしその後も続けて3週間に5回の強制検査が必要となりました。ビルのことがTVニュースでも流れ、心配のSNSも貰いました。特にオミクロン株には香港でもとても敏感になっていて、香港政府の蔓延防止政策の一つとして、大陸で使われている感染アプリが香港のアプリと共用されるようになりました。感染対策においても大陸主導と言えます。

牧師たちの方も大陸への移動が許されない中、手足が挽かれた様な感じが続いています。2016年7月に深圳から広州(番禺区・祈福新邨)に移つてすでに5年半が経ちましたが、そのうち2年間は出入りが許されなくなり、引き続き香港イマヌエル教会を牧させていただきながら、忍耐を学び、次の一歩のために神さまの時を待ち望んでいます。

出産のために日本に一時帰国していた姉妹が小さな子供を連れて広州に戻られたことや「先生方はいつ戻られますか」という問い合わせなどに励まされています。隔離期間の緩和やこれからはマルチ入国ビザの取得が必要となります。数年前までは、クリスマスの時期は伝道の良い機会でしたが、ここ数年はクリスマスのお祝いさえも西洋的なこととして禁止になってしまいました。特に大学生伝道や高齢者への訪問伝道などの働き

に主の助けが与えられるようにお祈りいただけると感謝です。将来的にはその波はいつか香港にも及ぶのではないかと案じられています。この地域のことや私たちの今後の働きは、神さまに全てを委ねています。引き続きお祈りください。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子\*2022年2月12日

「見よ、神は私の救い。私は信賴して恐れない。ヤハ、主は私の力、私のほめ歌。私のために救いとなられた。」(イザヤ二二章二節) 53名(学士変更プログラム登録者含めると73名)の履修登録者が与えられ、第二学期が始まりました。常喜は久しぶりに「預言書」を担当することになりました。9名の学生が受講しています。相変わらずオンラインクラスが継続されていますが、学生のほとんどは現在ノートパソコン(昨年はスマートフォン)でクラスを受けられるようになりました。この1年の間に経済的な犠牲も払っていた

ことを思われました。今月は預言書の序論、歴史、文学、メッセージ、終末論を学びました。来月からは預言各書に入ります。

昨年12月中旬にセブ島を東から西へ通過した歴史的にもかなり大きな台風オデット(フィリピン名はミンダナオ島北部、セブ島、パラワン島に大きな被害をもたらしました。現在も電気がないところもあり、国からの支援が継続されています。セブ島とパラワン島にあるウエスレアンバイブルカレッジでも、敷地にある建物の破損、半壊、また倒木などの大きな被害を受けました。2校とも小さな学校なので修理や後始末で経済的な試験を通過しています。セブ校の敷地内にある引退された牧師たちが住むウエスレアンビレッジも被害を免れず、女性で独り住まいをされているジョビナさんの家は全壊してしまい、今は学校の女子寮で避難生活をされています。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃\*2022年2月8日



「見よ、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。」 (イザヤ四九章16節)

何と言う慰め、力強い御約束！と深い神様のご愛を改めて感謝し3月の宣教の歩みの礎として信じ、仰がせていただきました。

2月第2週目、スカイプでのヴァンディー師との月例の会合をもちました折、とんでもない過酷な生活状況に置かれている事を知りました。昨年の12月から雨が降らず、加えてさらに大変なことは、建設会社の乱開発による既居住者への被害、各家庭の水道水が出なくなりました。南国に必須の水浴び、トイレのみならず、洗濯機は使えず、台所には汚れた食器・鍋類が山積み状態、毎日給水タンクで配給される水をバケツなどで汲み、家まで運ぶための行列、という過酷な生活が続いているとのこと。政府に訴えても何の動きもなく、腐敗した行政によって、いつ

も貧しい人々、弱い立場の人々が犠牲となる世の仕組みに、冒頭の聖句にまるまる信頼するしかありません。

また、先月ご報告しましたように、1月末からヴァンディー師とグレッグ師の働きの分野を分け、V師はG師の開拓したPPC(ペンペン教会)と現在の場所で開拓中の教会の2つを合同させて牧会に専念することに、G師は地方に散在する伝道者を訪問し再教育をすることに専念する事になりました。しかし2つの教会は南と西に離れており、どうしても中間に教会となる場所が必要となり、適当な場所と、しかも経済的をどこから?という大きな課題が城壁となった事態に直面しているという報告に哑然とさせられています。V師は現在の本部や宣教師館を売って中間地点の建物を、という案も相談してきましたが、それは私にとり神様の御心ではないと思うので、御心を探りつつ、要は「初めに建物あり」ではなく聖霊による救霊の御業と結果が確かな土台となった教会建設のために祈るようにと話しました。

今、信仰の戦いが開始した事を領きながら、神様の手の平に刻まれたKCCとその問題の解決のためにイザヤの神、イムヌエルの主が御自身の教会を建て上げてくださいますように、カンボジアの宣教の勝利を覚えてお祈りください。

KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子\*2022年2月10日



先月お伝えした通り、院内パンデミックが起きていた数週間間に百人強のスタッフが陽性と診断されましたが、スタッフに関して重症化の報告は無く守られました。多くのスタッフがすでにワクチンを受けていたことも作用していたようですし、この機会が未接種のスタッフの動機付けにもなっ

たようです。

病欠のスタッフが順々に戻ってきて、新たに感染するスタッフがほとんどいなくなり、患者さんの数も徐々に減り、新型ウィルス陽性でかつ緊急手術が必要な患者さんをお迎える回数も次第に間遠になりました。予定手術の再開のタイミングが少々早すぎる科があつて緊張した場面もありました。調整がされ、感謝でした。

患者さんが減ったので新型ウィルス陽性の患者さんの隔離病棟に転用されていた外傷病棟も元に戻り、臨時で手術室に派遣されていたスタッフも外傷病棟に帰ってきました。

何より、2カ月近く離れていた手術室主任のV兄が手術室に戻り、臨時増員込みで組まれていたスケジュールを再調整することたや、パンデミックの間の病欠を含めた勤務時間の計算や、休日出勤などでカバーしてくれた各スタッフの超過勤務の計算などやこしいあれこれに素早くて的確に対応してくださいました。

院内の教会も「現在のパンデミックを考慮して」と一時期オンラインのみの集会に切り替えていましたが、少し前から制限付きながら対面とオンライン併用の集会に戻っています。

結論から言えばだいぶ落ち着きました。お祈りを本当にありがとうございます。

主任が戻って数日、ほっとしたのもあったのかもしれませんが、

最近こつこつと各所で進められているペンキ塗りの影響か、呼吸や筋肉痛や頭痛やら寝汗やら、新型ウィルスかインフルエンザかと思うような症状が出て受診。新型ウィルスの検査では陰性でしたが、「何かに反応しているようだ」という事で薬も処方され、数日お休みを頂き、自宅で休息させていただきました。職場復帰後もしばらく体力等の回復に時間がかかりましたが今はだいぶ復調しました。院内各所でまだペンキ塗りも続いていますので、副産物として定時近くに帰る事が増えました。また、このところさまざまなる要因から停電や供給不足がしばしば起きています。さらに電力とともに水道にもちよくちよく不足等の問題が出ておりますので合わせてお祈りください。



台湾

久保光彦・せきな\*2022年2月8日

台湾は旧正月(旧暦)こちらでは農暦と称されることもあり(の新年)を祝う文化圏に属しま

すので、(西暦の)年末年始の休みなどは、日本に比べると短いものでした。幼稚園も1月3日から再開されました。気候も日本に比べれば温暖で、街中もほとんど変わりなく動いていましたので、所謂「正月気分」を味わうことは中々なかったように思います。それでも、1月1日になると同時に、近くでは火花が上がる音が聞こえ、新鮮な気持ちで台湾での(西暦の)新年を迎えました。台中教会では元旦礼拝を持ちました。今年はマタイの福音書六章33、34節を教会の年頭聖句として頂き、新しい一年を始めることが許されました。新型肺炎の中で、様々な不安要素が依然として国内外で山積している中、年頭聖句のみことばのとおり、本当に大切なことを、教会として、一人一人が求め続けていく一年になるようにと願っています。1月末には今後の教会の方向性について話し合う時を持ちました。新改訳2017にいつから切り替えるか、今後の教会としての活動、対外的な活動などについて話し合いました。非常に有益な時であったと感じています。5月に來台し、7月の着任以降、コロナの影響もあり教会の方と時間を取って話し合いをすることは難しい状況でしたが、新しい年に入り、そのような機会を持つことができたことは本当に感謝でした。新型肺炎の影響で、どのような計画にも何らかの制限が生じる中です



お祈りの課題

香港(鹿島)

◆コロナ禍が収束し、教会の13年目の歩みが祝され、対面礼拝が速やかに再開でき、新しい方も加えられてくるように

◆牧師の健康が支えられるとともに大陸への出入りのためのマルチ入国ビザが速やかに取得できるように

◆香港の大きな社会変化の中、表現の自由が保たれ、思想・言論統制から守られるように

◆近隣の宗教政策が段々と厳しくなっていく中でも、福音宣教の働きが進められるように

フィリピン(豊田)

◆聖書大学のオンラインクラスで学生たちの学びが祝され、霊肉ともに守られるように

◆聖書大学では新年度(8月)から対面授業を計画し、そのための経済的必要と準備が整うように

◆事故、事件、怪我、過ち、災害、病氣、疫病から家族が守られるように。常喜の網膜静脈閉塞症、恭子の甲状腺嚢胞の回復のために

◆カンボジア(豊田緑乃)

◆ヴァンデイ師の教会と合併したPPCのクメール語教会の礼拝場が与えられて一つとされた教会が教会として建ち上がることができるよう

◆伝道者の神様との関係が現実的に救霊と自らの霊的成長に結びつく真の交わりとなるように

◆グレッグ師による伝道者再教育の働きが伝道者の霊的、知識的、実践的面に変貌と成長の結果に繋がる働きとなるように。加えて主の御心が豊田のカンボジア行の全てになされるように

◆ケニア(豊田就子)

◆院内パンデミックが落ち着いて主任も復帰した感謝

◆病院の働きが、福音の深化と伝達のために用いられるように

◆麻酔科、整形外科等の働き人(ルカ一〇・二)が起されるように

◆台湾(久保)

◆旧正月を越えて、感染増加・クラスターの発生がないように

◆日本から台中に新しく来られる方が無事に来台され、また教会につながるように

◆新しく始まっているウクレレ部(希望之星)の働きが祝されるように

# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 義のわざによってではなく

院長 ● 林 正弘

「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。」

(テトス三・5)

コロナ禍2年目で始まった今年度ですが、いくつかの波を経て、も感染は収束に至らぬまま締め括られようとしています。多くの制約はありましたが、教室での授業もかなりの割合で行うことができましたし、充実した一年であったと思っております。この背後に多くの方々のお祈りとご支援、また御労があったことを覚えて、心から

感謝しております。一方で、なほ先行き不透明な状況にありますし、希望をもたらず材料に乏しいのが現状です。

物事がうまく行かないとき、私たちはその原因を知ろうとします。何がいけなかったのか、足りない点は何だったのか、そもそも目指す方向を間違えたのではありませんか、などと考えます。そして深い反省から改善すべき点が見えてくる場合があります。

ります。そういった営みは必要なことに違いありません。しかし、それだけで解決に至るのではありません。

私たちの視点は、「自分が」ではなく「神が」でなければなりません。そもそも私たちが救われたのは、自分が何か良いことをして救われるにふさわしい者であったからではありません。義のわざの結果として獲得したものではありません。義のわざのあわれみのゆえに神が救ってくださったからです。この聖書の箇所です。パウロは、義のわざを行ったのが私たちであることを強調した上でそれを強く否定しています。私たちは、自分が何をしたのか(しなかったのか)に目を向けがちです。しかし大切なのは、神が何をしてくださったかです。厳しい現実、に直面するときも、今後を展望するときも、神が何をしてくださるのかに目を向け、その神のみわざとみこころに信頼し期待して従っていく姿勢を取りたいと思います。



春を告げるラッパ水仙が咲き始めました

### 神学エッセー

## 苦難について



梅田 昇

私たちは、日々の生活の中で、様々な苦しみ、苦難に直面します。信仰者として、様々な苦難に直面することがあります。

1 苦難の現実 私たちの人生において、苦難、苦しみは大きな課題です。神様は全能・愛のお方なのに、なぜ人生に苦難があるのだろうかと疑問に思うことがあるでしょう。神様は私たちを見放されたのではないかと疑問を持つことがあるかもしれません。新型コロナウイルスが2020年初めから猛威を振るい、多くの死者があり、日本は第六波を迎え、困難な状況にあります。勤務先が倒産したり、難病になったり、自然災害に巻き込まれたり、不条理な犯罪の被害者になることもあります。

3 苦難の意味 苦難の理由はしばしばわかりませんが、苦難の中で主を見上げて歩むことは幸いです。苦難は確かに辛い経験ですが、苦難を通して、信仰が試され、人格が磨かれます。ペテロは、「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試験を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っ

てはいけません。むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。」(1ペテロ四・12-14)と書き送っています。苦難を経験することで主の苦難にあずかり、試験で試された信仰は金よりも高価であり、主の栄光をもたらします(1ペテロ一・7)。

真実な主は試験と共に脱出の道を備えてくださいます。苦しみや課題の尽きない私たちの人生ですが、苦難の中でも、愛と恵みの主をしっかりと見上げつつ、希望をもってコロナ禍の中で、日々を歩ませていただきたいと思います。

いま神学院では……  
手紙の人、ウエスレー  
教師●藤本 満



前回は、日記の人としてのウエスレーを紹介しました。信仰生活を整えようとするとき、ウエスレーは毎日をまず日記をつけることで整えようとした。ビジネスの世界で日記やスケジュール管理を心がけているのなら、信仰生活でもそのような習慣を身につけることは、決して特別なことではありません。

今回は手紙です。ウエスレーは多くの手紙を記しました。『ウエスレー全集』には、彼の三千五百通の手紙が収録されています。

彼の生涯を10年単位で区切ると、70歳を超えた1771〜1780年には一千通。次の年に召されるまでの80代では、一千三百通と生涯で最も多くの手紙を記しています。

年齢が重なるって巡回をこなすことのできなくなってきたウエスレーが、魂のケアとガイダンスのために、常にペンを執っていたことがわかります。

当時、手紙が唯一の通信手段です。手紙を通して魂のケアをするという方法は当然だったので

しょう。しかし手紙にはそれ以上の趣がありました。

ウエスレーがオックスフォードの学生の頃、自分の霊的指導者と尊敬していた十七世紀フランスの霊性運動の指導者フェヌロンやグレイヨンの夫人も、手紙を通して霊的な指導を施し、それらを出版してきました。

『キリスト教牧会の歴史』(History of Christian Ministry) 吉田信夫訳、(日本基督教団出版局) を著したマクニールは、フェヌロンやグレイヨンの夫人と共に、十六世紀のジョン・ノックス、国教会の迫害を受け幽閉されながらも三百通を超える手紙を牢獄から出して、霊的な感化を周囲に与え続けたサムエル・ラザフォード、そしてウエスレーを挙げています。マクニールは、それらの手紙が、神学的な著作や説教に勝るとも劣らない内実のあるものであると認め、こうした霊的な手紙が単に個人的なやり取りとして理解されるものではなく、人を知り、個人的にたましいをいやし、励まし、導くための牧会的・教育的手段であったことを高く評価しています。

それに似たことを、実は私たちもできるのです。直筆の手紙や葉書は今でも尊ばれます。しかし、今の時代、メールやSNSでもいいのです。そこに霊的・信仰的なひと言葉が入ると、実に牧会的なケアになります。ウエスレーなら、霊的ケアのためにSNSを使うでしょう。

同窓生の近況

63期生

高尾キリスト教会●大畑真紀子



「わたしの恵みはあなたに十分である。私の力は弱さのうちに完全に現れるからである」(1コリント12:9)

2016年神学院を卒業し、今はカルバリー・バプテスト高尾キリスト教会で副牧師と任命を頂き、高齢の主牧師を支えながら卒業6年を迎えます。途中乳がんを患い手術と治療、霊的にはコロナ禍の牧会の難しさも通りましたが、みことばの通り弱さの中に主の力と恵みを与えられております。

神学院時代は委託生にも拘わらず、諸先生方の熱心なご指導とお交わり、背後のお祈りに感謝で一杯です。神学院での少人数の豊かな学びは奉仕の中に生きています。教会員と家族の祈りも主からの贈り物です。長男聖一郎は昨年社会人、次男信輝は大3生、三男愛志は今年高校卒業、四男新は高2生皆チャーチスクールで学び、受浸し、CSのために祈り奉仕をしてくれて感謝です。主人は働きながら神学の学びを続けており、教会も高齢化の中、心は若く燃え、次の世代に福音を伝えるため主に知恵と憐れみを祈り邁進しています。

神学院スタッフ…恵みの想起

ふきのとう

営繕課 徳竹信雄

1月29日、ふきのとう二つ収穫。今年も関東で雪が降りました。雪を片付けるより、落ち葉かきのほうが断然負担は軽いです。それでも身に堪える作業です。クリスマスをピークに落ち葉は地面にしつかりなじみ、その重なりから春を告げるふきのとうが暖かい日差しを浴びて南斜面に芽を出し、今年も学院の春を告げてくれました。「万軍の主はこう言われる。見よ、一人の人を。その名は若枝。彼は自分のいるところから芽を出し、主の神殿を建てる」(ゼカリヤ6:12)。希望の光であるイエス様がお出でくださる。希望のメシアである主イエスと、うちに住んでくださる聖霊に導かれて、これから迎える喜びと共に、苦難をも噛みしめ、乗り越えて行きたいと祈っています。

学苑だより



●オミクロン株のコロナ感染拡大により、2月は多くのクラスがオンラインによって行われました。昨年10月から始まった後期ですが、3月第一週にテスト週があり、4日の終業礼拝をもって締めくくられました。礼拝後は昼食をとみにし、その後、それぞれと言わずつ恵みを分かち合う時を持ちました。

●1月31日(月)夜、BTC祈り会がオンラインで開催されました。次回は3月7日(月)に行われます。

●2月1日(火)には、青年部の先生方とともにBTCリトリート準備委員会が持たれました。今年は少し違った形で夏にも開催を予定しています。

●馬場満子姉は、1月より学務課の仕事に復帰されました。これまでのお祈り、ありがとうございます。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。1月の会計報告をさせていただきます。

1月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥1,500,000

教会員による  
「神学院サポート献金」  
¥1,486,580  
教会団体による「神学院献金」  
¥763,050  
合計 ¥2,249,630  
その他の献金(一時・特別)  
¥62,000

・振替：00230-0-10138

教育局 青少年部から……

# 連携と連続性を 青少年の信仰育成に



中高生課 細田恒太郎

「後になって、あなたがたの子どもたちが『この石はどういうものなのですか』と尋ねたとき、あなたがたは彼らにこう言いなさい。」(ヨシユア四・6-7)

次世代の信仰を育成する働きは時代を超えて求められています。神さまはヨルダン川を渡ったイスラエルの民に対し、ヨルダン川の真中から12の石を取り出し、記念の碑を作り、この出来事を教材として子孫に伝えるように命じられました。ヨルダン渡河の出来事が、後の子孫に真の神がいかに力強いお方であるのか、また信仰の本質とはいかなるものかを伝えるように求められたのです。同様に、私たちもまた、イエス・キリストを通してなされた神さまとの個人的な関係と体験が次世代に引き継がれることを祈り求め、伝え続けていく使命が与えられています。

近年、中高生課が課題として挙げているのは、それぞれの課との連携と連続性です。中高生課は、ちょうど教会学校課と青年課との中間に位置する課です。蝶が幼虫から成虫に変化する過程で、さなぎという、形も器官も大きく変化する中を通過するように、子どもたちも中学、高校という6年間で、身体的にも精神的にも大きな変化の中を通過します。中高生課は、教会学校課と青年課という2つのステージを結びつけるまさに、さなぎのような役割を持っています。

教会学校に集まっている子どもたちが、親の信仰からの自立に向けて「中高生キャンプ(とにキャン)」や「とにフェス」に繋がりが、信仰の良き友と交わり、繋がりが続くこと、またそこを卒業したメンバーが、卒業後、青年課での交わりに加わり、交わりを継続しながら、信仰を成長させ、教会の中にも主体的に働きを担っていくような存在になってもらうことが理想です。

これまでは、ユース・ステーションが数年に一度のサイクルで開催されていたため、高校を卒業した方々をなかなか青年課の働きに繋げることができていませんでした。しかし近年、青年課では、ビルドというオンラインの活動が毎月開催されるようになり、今春もたれる「とにフェス」の中で、ビルド担当の青年にビルドのアピールをして頂くことになっていきます。今春卒業する高校生たちが、4月にもたれるビルド(歓迎ビルド)に繋がりが、これまで持たれてきた信仰の友との交わりを継続させながら、さらに上の世代の青年方とも交わりの輪を広げ、信仰の良い感化を与えられつつ、互いの信仰が励まされ、強められていくことを期待しています。こうした課と課の間の連携や連続性が更に具体的な形で進められ、青年方の信仰の成長に寄与することができるようにと願っています。

一方、聖山高原でもたれてきた「とにキャン」はここ2年間、コロナのため対面で持つことが叶いませんでした。中学1、2年生は現地での対面キャンプの経験がありません。大自然の中で、世の喧騒から離れ、特別な空間で、特別な仲間と共に味わうキャンプや霊的体験は、中高生の信仰を大きく成長させてくれます。こうした体験を一人でも多くの中高生が、一回でも多く得ることができるよう祈り頂ければ感謝です。

教育局では、教会学校課、中高生課、青年課がその使命を補助す

信徒局からのお知らせ

# コロナ禍での諸活動 一歩前に進みました



信徒局長 斎藤純雄

「この戦いは、あなたがたが戦うのではない。堅く立って、あなたがたとともにおられる主の救いを見よ。」(Ⅱ歴代二〇・17)

いつも信徒局のために、貴いお祈りとご支援を賜り、主に在りて厚く感謝申し上げます。

▼コロナ禍が終息の気配も見せず2年目に入る中、教団は新しい総会期を迎えました。3年後の次の総会では、局長をはじめとして新旧交代を迎えることとなります。それを見据え、新しく3名の兄弟を信徒局に迎えました。

また、信徒局アドバイザーとして、佐藤信行先生と葛田聰毅先生を新たに迎えられました。

▼昨年1月に改正された局細則に則って、信徒代議員の方々を中心にエリア運営委員になっていただくことを、ご本人と所属教会にお願いするところまで来ていました。ご理解が十分浸透していない現状で、

全国教会から質問と要望を受けました。それに対する応答を教団運営委員会で共有し、時間をかけて進めていくことになりました。

10月に入ってエリア担当者の任命発表に至り、12月に初めての信徒局エリア担当者連絡協議会を開催することができました。今後の信徒局の方向付けを検討する会となることを期待しています。

▼前年新型コロナウイルス感染拡大のため発行できなかった信徒局ニューズレター第2号と信徒フォーラムの特集号を、PDF版とともにお届けすることができました。

10月には内山勝先生をお迎えして、2年ぶりにオンラインによるカナ・フェロシツプを開催することができました。進展もあり、感謝です。

▼前年に新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった第1回イムマヌエル信徒フォーラムを、11月23日にオンラインで開催することができ、全国の皆様と恵みと祝福を共有することができました。

また、全国壮年部大会の繰越金を長らくお預かりしてきましたが、今回教団運営委員会と会計監査の承認をいただき、今後とも信徒フォーラムの必要のために使用させていただきます。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

▼12月には、一昨年に続き信徒局から宣教地へクリスマスカードとささやかなプレゼントをお届けすることができ、感謝でした。

教育局では、教会学校課、中高生課、青年課がその使命を補助す

# 公報

## 本部通達

「主に信頼し善を行え。地に住み誠実を養え。主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかえてくださる。」(詩篇三七篇)

今月末にはオンラインによる第77次年会が開催されます。二日間に行われるプログラムを覚えて祈りましょう。新たな任命を受けて遣わされる牧師と受け入れる教会、また引退される先生方に祝福をお祈りください。

### ■本部

#### （公告）

磐田教会（竿代忠一牧師）は現会堂敷地（借地）を購入することになりました。購入諸費用5500万円は自己資金と教団融資（1100万円）で充当します。正規の手続きを経て、教団責任役員会は承認しました。

2022年1月13日  
イムマヌエル綜合伝道団  
責任役員会

### （公議）

23日（水）年会初日午後  
教団責任役員会（決算書承認）

### ■第77次年会

各教会の先生方には事前に年会資料を送付いたしました。質問等は、3月8日（火）までに、本部総務局長宛に書面にてお送りください（メール・FAXも可）。

- 第2回 3月14日（月）20時～21時（当務・浜田耕三師）
- 信徒代議員、神学生の方々も参加可能です。第一回と同じZoomリンクからご参加ください。
- （年次プログラム）
- ▼23日（水）
- ▼9:30～自由参加祈禱会
- ▼10:00～開会礼拝・議事会1  
当務Ⅱ岩上祝仁師
- ▼13:30～議事会2・3
- ▼16:30～聖会 司会Ⅱ古川恵子師/説教Ⅱ小川宣嗣師/特別賛美Ⅱ前田めぐみ姉（中目黒）
- ▼19:30～神学院期別祈り会
- ▼24日（木）
- ▼9:30～自由参加祈禱会
- ▼10:00～組織改革検討チーム報告 担当Ⅱ佐藤信行師/テーマ別フォーラム 担当Ⅱ大兼久芳規師、川嶋直行師、田辺寿雄師
- ▼14:00～宣教会 司会Ⅱ田辺寿雄師/説教Ⅱ岩上祝仁師/特別賛美Ⅱ神学生
- ▼15:10～按手礼/任命式
- \*聖会、宣教会、按手礼、任命式はYouTubeで配信します。一般信徒の方も視聴可能です。
- 財務委員会
- ▼第77次年会開催のための総予算は435万円です。そのうち225万円を年会分担金として全国教会にお願いしております。各教会で実施される年会献金へのご協力をよろしくお願い申し上げます。3月18日までに送金をお願いいたします。
- ▼単位法人格を持つ教会は、毎年

の法的義務として毎会計年度終了後4か月以内（通常4月末まで）に、宗教法人の事務所に備え付けの書類の写しを、各都道府県所轄庁に提出するようにお願いします。この場合、事務所に備え付けの書類とは、役員名簿、財産目録、収支計算書・貸借対照表（作成している場合）、境内建物（財産目録に記載されているものを除く）に関する書類、収益事業に関する書類となります。同じ写しを本部総務局宛にもご提出ください。

### ■総務局

#### （教職按手礼試験について）

正規の教職按手礼試験受験希望者は、3月末までに総務局へ申請書をご提出ください。（申請書は、教団HPトップページ左欄、総務局書類のタグからダウンロード）。長期に亘り教職試験の職位にあられる牧師夫人の方々の受験受付期限も3月末です。相談は各地域担当BAまで。

### ■世界宣教局

▼2月4日（金）午後15時～17時 午後18時～20時 午後20時～22時 午後22時～24時 午後24時～26時 午後26時～28時 午後28時～30時 午後30時～32時 午後32時～34時 午後34時～36時 午後36時～38時 午後38時～40時 午後40時～42時 午後42時～44時 午後44時～46時 午後46時～48時 午後48時～50時 午後50時～52時 午後52時～54時 午後54時～56時 午後56時～58時 午後58時～60時 午後60時～62時 午後62時～64時 午後64時～66時 午後66時～68時 午後68時～70時 午後70時～72時 午後72時～74時 午後74時～76時 午後76時～78時 午後78時～80時 午後80時～82時 午後82時～84時 午後84時～86時 午後86時～88時 午後88時～90時 午後90時～92時 午後92時～94時 午後94時～96時 午後96時～98時 午後98時～100時

### ▼会計の小笠原兄（中目黒教会）

は、この3月をもって退職されます。6年間のご奉仕に心から感謝いたします。4月より、福島恭子姉（桂町教会）が引き継いでくださいます。

### ▼富澤香元宣教師は、残務処理のため3月16日ザンビアへ向かわれます。2か月ほど滞在の予定です。

### ▼カンボジアの愛の泉プロジェクト

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣  
発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

- ト（昨年分）ですが、「KCC伝道者セミナーのため」となっていました。コロナで開催できませんでしたので、代わりに「巡回牧師のガソリン代のため」に用いられることになりました。送金されました。
- ▼アメリカ帰国中のマッツ宣教師一家、ホーリー宣教師のサポートが満たされるように祈りましょう。
- 教育局
- （教育部・生涯学習課）
- ▼第3回若手牧師研修リモートミーティング  
日時Ⅱ3月3日（木）午後1時半～4時
- テーマⅡ「教会運営について」  
発題①Ⅱ「教会におけるコミュニケーション」(田辺寿雄師)  
発題②Ⅱ「役員会・幹事会の持ち方」(佐藤信行師)
- 分かち合い、締めくくり、など。
- ▼有志による読書学習会  
聖潔の良書を用いて、少人数のグループによる読書学習会を春頃から開催予定。
- （教育部・信徒教育課）
- ▼信徒向け聖書講座（無料、各教会で自由に利用可）。
- 内容Ⅱ「使徒の働き」の学び（第15回目まで公開中）。
- 講師Ⅱ岩上敬人師（JEA総主事）（教育局HPからいつでも視聴可）
- ▼過去の信徒聖書講座  
内容Ⅱ「主の祈り」(藤本満師、第8回・最終回まで公開済み)
- 次回からは「救いの確立」(熊谷邦男師)の公開を予定。
- （青少年部・青年課）

- ▼ビルド（月に一回開催中です）  
（青少年部・中高生課）
- ▼とにキャンフェスティバル（Zoom開催）  
日時Ⅱ3月29日（火）午後4時～6時10分
- プログラムⅡ名所中継クイズ、ゲーム、メッセージ、交わり
- 申込方向ⅡチラシのQRコードで申込締切Ⅱ3月9日（水）
- ▼教育局HPの左下に、グローバル・パートナーズ（ウエスレアン宣教師団）のロビン・ホワイト宣教師が立ち上げているマンガミストリー Drawbridge Creations のサイトとプロジェクト第一弾の作品がリンク付けされています。
- 聖宣神学院
- ▼神学院祈り会は3月7日（月）、オンラインで行います。
- ▼今年度、卒業式は行いません。3月4日（金）の終業礼拝をもって学年度が締め括られました。
- ▼在校生の教会実習は3月27日（日）まで、新年度の教会実習は4月10日（日）からです。
- ▼ベテルハウスの宿泊利用は見合わせています。
- ▼BTC後援会は「世話人」の更新時期です。引き続きご協力をお願いいたします。
- 出版事業部
- 「祈りのネットワーク2022」のために祈りの課題を3つ、写真2枚をメールに添付してお送りください。担当は吉村和記師です。送付先 inori@immanuel.or.jp  
教報PDFパスワードⅡ24222